

北吉田遺跡群

県営ほ場整備事業北吉田地区
埋蔵文化財発掘調査報告書

1997.3

石川県立埋蔵文化財センター

北吉田遺跡群

県営ほ場整備事業北吉田地区
埋蔵文化財発掘調査報告書

1997.3

石川県立埋蔵文化財センター

例　　言

1. 本書は県営は揚整備事業北吉田地区に係る石川県志賀町北吉田カイザキ遺跡・ノシロタ遺跡・ホシナ遺跡発掘調査報告書である。
2. 調査は石川県農林水産部耕地整備課の以来を受け、石和県立埋蔵文化財センターが実施した。
3. 現地調査は平成4年度と5年度に実施した。
4. 調査費用は県耕地整備課が負担したほか、文化庁補助金の交付を受けた。
5. 遺物整理は石川県埋蔵文化財保存協会に委託して実施した。
6. 掘図中に指示する方位は公共座標系による。また断面図中の水平基準に示す数値は標高（単位m）である。
7. 本調査で出土した埋蔵文化財および記録資料は石川県立埋蔵文化財センターが保管している。

本　文　目　次

第1章 平成4年度の調査	(中島) - 1
第1節 調査の概要	(〃) - 1
第2節 調査(遺跡)地と遺物出土状況の概要	(〃) - 1
第3節 遺跡の様相	(〃) - 2
第2章 平成5年度の調査	(本田) - 16
第1節 調査の概要	(〃) - 16
第2節 造構と遺物	(〃) - 16
第3節 まとめ	(〃) - 26

報告書抄録

ふりがな	きたよしだいせきぐん						
書名	北吉田遺跡群						
副書名	県営は楊整備事業北吉田地区埋蔵文化財発掘調査報告書						
卷次							
シリーズ名							
シリーズ番号							
編著者名	中島俊一、本田秀生						
編集機関	石川県立埋蔵文化財センター						
所在地	石川県金沢市米泉町4丁目133番地 TEL 0762-43-7692						
発行年月日	平成9年3月30日						
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所 在 地	コ ー ド	北緯	東經	調査期間	調査面積 (m ²)	調査原因
北吉田 カイザキ遺跡	石川県羽咋郡 志賀町北吉田地内	市町村 遺跡番号	37° 1' 26"	136° 48' 2"	19920707～ 19920903	200	県営は楊整備事業 (流動化型) 北吉田地区
北吉田 ノシロタ遺跡	石川県羽咋郡 志賀町北吉田地内	17384 29148	37° 1' 16"	136° 47' 48"	19920707～ 19920903 19930531～ 19930630	340 300	県営は楊整備事業 (流動化型) 北吉田地区
北吉田 ホンナ遺跡	石川県羽咋郡 志賀町北吉田地内		37° 1' 4"	136° 47' 38"	19920707～ 19920903	160	県営は楊整備事業 (流動化型) 北吉田地区
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項		
北吉田カイザキ遺跡	散布地か 集落遺跡	平安時代、中世		土師器、須恵器、中世 陶磁器	集落遺跡の縁辺部と推定される。		
北吉田ノシロタ遺跡	散布地か 集落遺跡	弥生時代、古墳 時代、平安時代、 中世		弥生土器、土師器、須 恵器、中世陶磁器、木 製品	複合集落遺跡の縁辺部と推定さ れる。		
北吉田ホンナ遺跡	散布地か 集落遺跡	弥生時代、中世	溝跡	中世陶磁器、木製品	集落遺跡の縁辺部と推定される。		

第1章 平成4年度の調査

第1節 調査の概要（第2・3図）

米町川中流域に形成された冲積平地（水田）に施行される県営は揚整備事業北吉田地区（北吉田工区）は、は場整理区面約6haを対象に行なわれることとなった。平成3年の秋に、遺跡の所在および範囲確認を目的に試掘による分布調査が県立埋文センターを担当として行なわれ、区内に分散的な4地点からなる土器等遺物の分布範囲が確認された。

この4地点のうち、3地点は米町川右岸側の丘陵部から幾分冲積平地に舌状に広がる遺物の分布状況として把握され、米町川上流側よりそれぞれ通称を探って北吉田カイザキ遺跡・同ノシロタ遺跡・同ホシナ遺跡とされ、左岸側のもう1地点は、上記のノシロタ遺跡と川を挟んで対面的位置関係にあったためか、同じくノシロタ遺跡と命名されてきている。なお当初、カイザキ遺跡をゆ揚遺跡と呼んできたが、発掘調査中に通称ゆ揚地点は別地点であることが地元の方々より指摘を受け、ここに、カイザキ遺跡と訂正していただきたい。

平成4年度の調査区は、4地点の分布塊として捉えられたなかの、米町川右岸側にある3地点（整備工事先行予定期）を対象とし、いずれも用排水路（パイプライン他）で深掘削される、幅約2m以内の線的な調査区（トレンチ）である。

発掘開始に先だって、用排水路計画線形（センター）に沿った杭打ちを羽咋土地改良事務所にお願いし、7月7日から米町川上流側にあるカイザキ遺跡より上層部の重機掘削によって開始した。以来、下流川のノシロタ遺跡・ホシナ遺跡へと順次移動しつつ、9月3日現地発掘作業を終えた。

第2節 調査（遺跡）地と遺物出土状況の概要

カイザキ遺跡（地点） 当地点は主要地方道掘松一田鷹浜線に若干間隔（将来の道路拡幅か）をおいて併走する用水路部分にあたっている。耕作土以下第4層までの約0.8mまでが青灰色系の粘質土で、その下部層では不整齊的な砂層や粘土質が存在する部分もあるが主として厚いビート層が占めているためか、上部層を掘り下げていく毎にふわふわとした浮島様の状況が加わっていく地点で、生活基盤面と想定できる面的なものを探ることはできなかった。遺物の出土状況でも、第2層から4層まで単発的に出土することもあるが、遺跡地としての主体は西側の丘陵部と推測される現道付近にある可能性が考えられる。

第5図では10世紀代とみられる杯頬が目立っており、他に10の中世土器皿等やⅡの灰色胎で全面に灰白色でにぶい光沢と半透明性の釉がのる碗？・印花のある陶片などがある。14は砾石・15は鉄製品である。

ノシロタ遺跡（地点） 当地点も道路と併行方向の第2・3トレ（パイプライン）と、米町川にはば平行の第1トレンチ（排水路）であるが、ここでも遺構と捉えられるものの発見はない。第1トレンチでは上部より第3層目に約0.3~0.5mの砂層の堆積があり、その下部の第4~5層に土器片数点と、第6層では自然木が含まれていてその下の第7層は植物遺体となる層をなしていた。

第2・3トレンチでは、耕作土以下第4層までが基本的に砂質層で、ほぼここまで重機での掘り下げを行った。従って、第8図～第11図で掲げているものはほとんどは第5層（淡黒褐色土）以下第7層（濁灰色粘質土）までの出土となっているが、層堆積と出土遺物のあり方が混沌として明確にできるものではなかったが、主に中世土器類は第5層～第6層上部・弥生後期土器類は第7層主体であるので大まかには堆積時期の類推は可能である。

第8層と第7層との区分は明確ではなく、溝の強弱によって分層したが、この7層と8層の界あたりで繩文土器と考えられる木葉痕のある厚手の底部片1の出土があった。第9層は植物遺体層が厚く積っていて、極部の

に数ヶ所を掘り下げるみたが、どの部分でも1mを越えて以下は確認できなかった。

ホシナ遺跡（地点） この地点は、他の2地よりも丘陵裾に近い位置にあるよう、丘陵を構成する砂岩の風化土（淡黄白色砂）をベースとして幅約2.2mの溝が検出された（第12図）。第1トレの途中から、第2トレの途中までのコの字に現われているが、2トレの北側に溜井となるか長方形状の一段深めた坑があり、そこから東方側へ分岐的な溝（部分）がある。棒状の木・竹がある板状などがおもにこの長方形状坑部とその隣接部分に遺存していました。第2トレ南側～第3トレ北側にかけては東側（米町川方向）への凹地があるが、第3トレ南側端の凹地形ともあわせて考えれば、丘陵裾部の自然傾斜部分にあたっているように想われる。

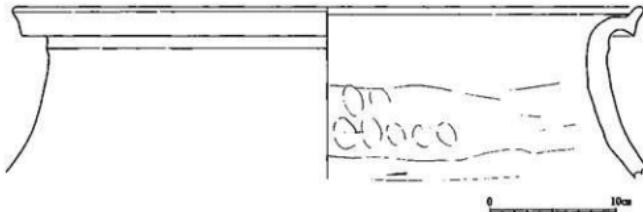
溝内より出土した土器類は、第13図13があるが、埋土中の上位からである。その他は包含層中からとして取り上げられているが、地形的な段差や地点ごとの埋積状況の異なりもあって一連的には把握できなかった。第13図1は第3トレの凹地部から、第14図1は第2トレの凹地部分で出土した。

第3節 遺跡の様相

今回の調査地点は、ホシナ地点で鐵かに中世段階かと推測される溝跡が検出できたにすぎない。とはいって、各地点ともそれなりの土器等遺物の出土があり、単なる遺物の存在だけではなく近接する空間に集落など遺跡の具体があることは疑いえない。

各地点とともに、断ち割り等で下部層の状況を確認してきたが、約1mを越えてまだ続く（以下不明）草炭・泥炭層が存在していて、その上部に堆積した粘質土上部より繩文土器片・続いて堆積した粘質土より弥生後期と、序々に埋積が進んでいったといえ、草炭による浮島的な制約のなかで居住城が丘陵裾部にあたる現道路～宿館にかけた現集落部と重なった、断続的といえ繼起的に営なされてきた結果の断片を呈示して遺物群といえそうである。

現在知られている極く近辺の遺跡では、カイザキ地点より北方に大きく屈曲する米町川上流部役200m地点で、同河川の改修工事（昭和35年頃）の掘削土中に、北壁でも最も古く位置付けされていた弥生式土器（紫山出村式）が採集されている北吉田米町川遺跡があり、この南側丘陵（カイザキ、ノシロタでは西側の隣接丘陵）上では30基を越える北吉田古墳群の他、ホシナ地区西側～南側に連なる丘陵部上でも6基が数えられる掘松古墳群などが知られており、5～6世紀代に築かれたものとみられている。この他では、ノシロタ地点とホシナ地点の中間程の西側丘陵に解析を受けた小谷が入り込んでいて、奥に向かって右側第一番目の分岐小谷の中程に礫とともに集塵業された越前甕片の一部を採取し、畑作用か住居に伴っていたものか不明であるが下に掲げておきたい。

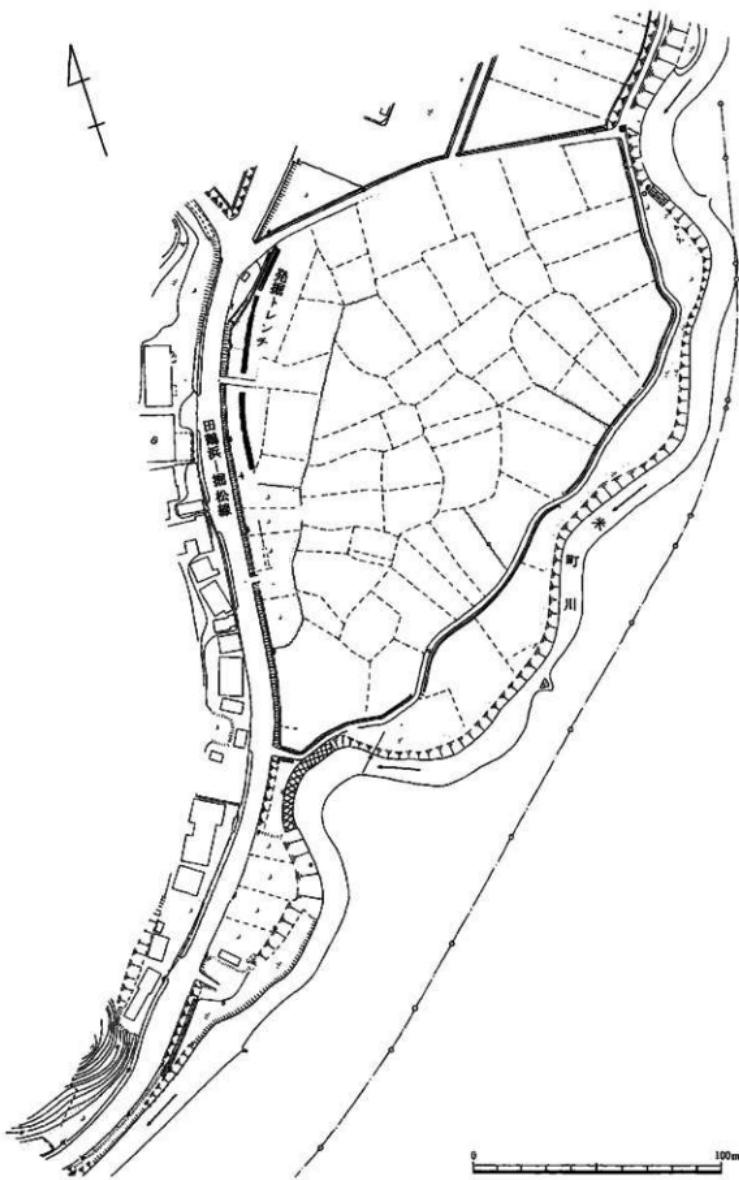


第1図 採集遺物

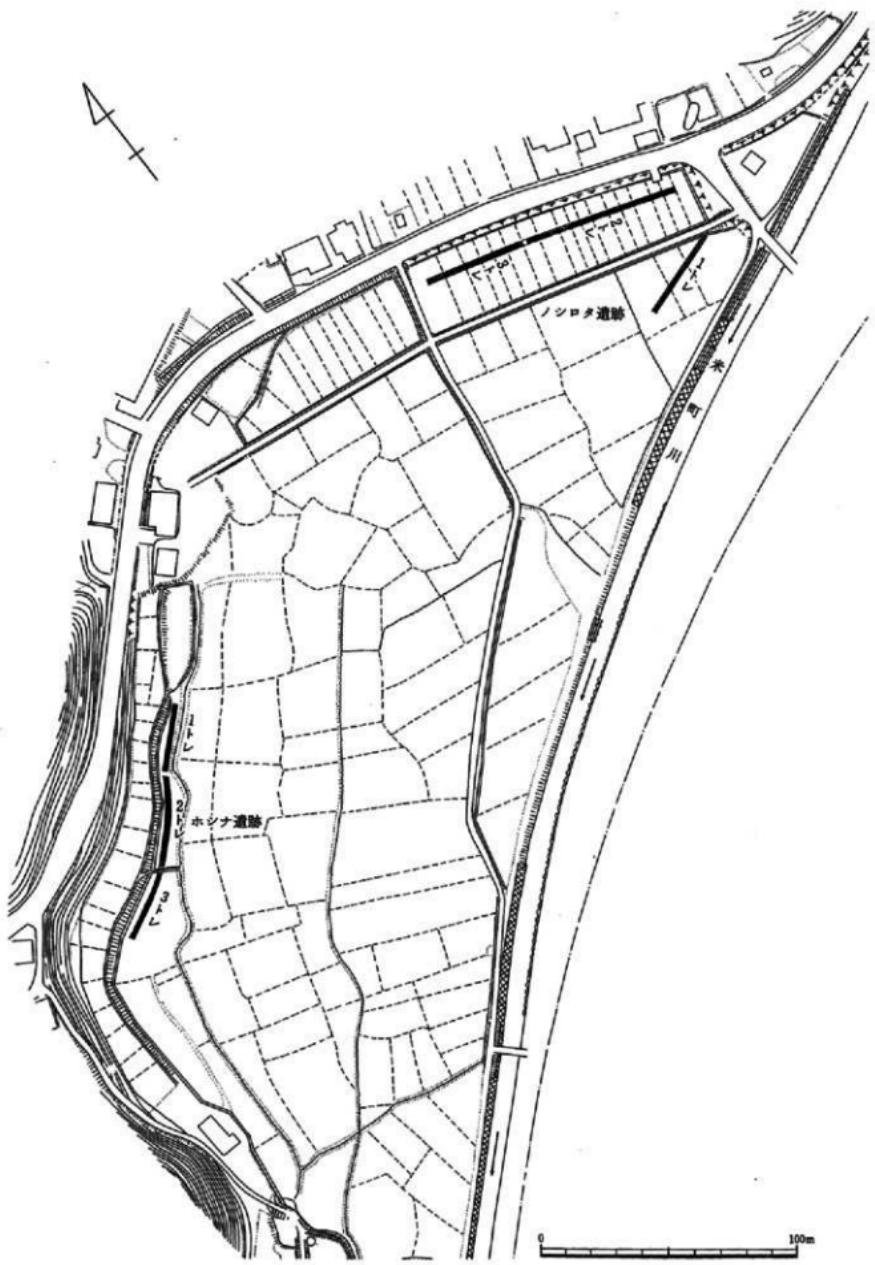
参考文献

志賀町史編纂委員会『志賀町史』資料編 第1巻

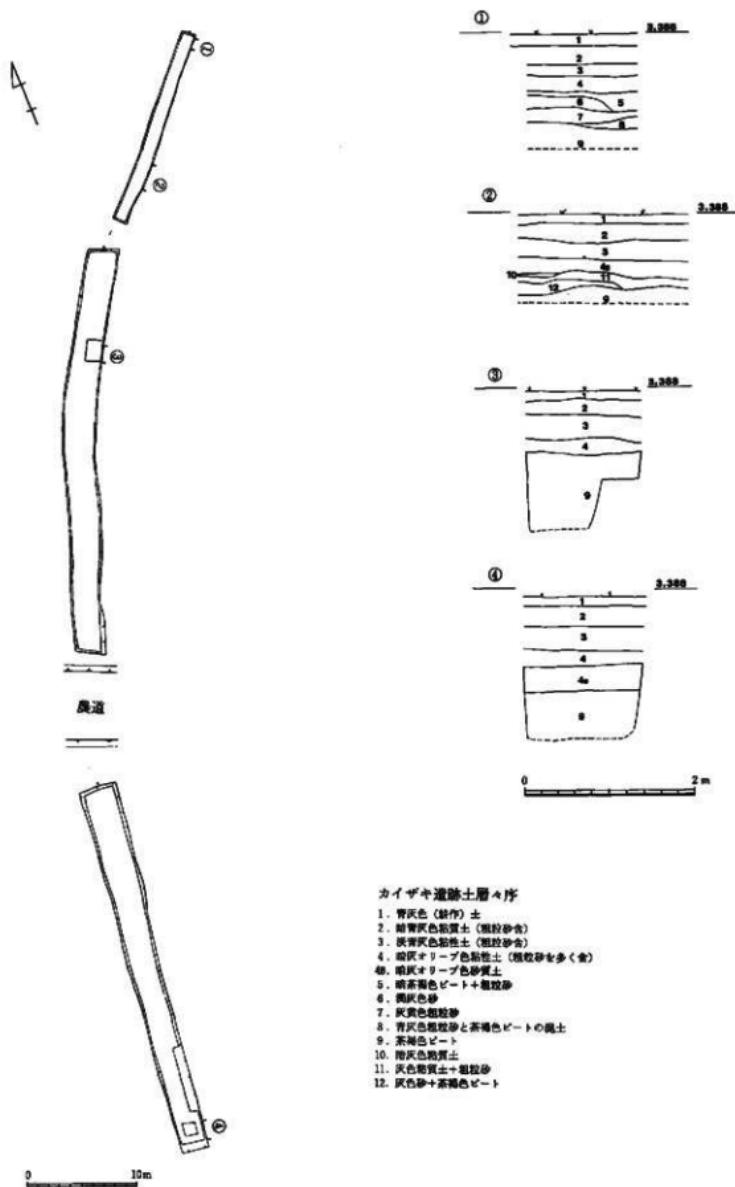
伊藤雅文 1992『北吉田ノノメ古墳群発掘調査報告書』石川県立埋蔵文化財センター



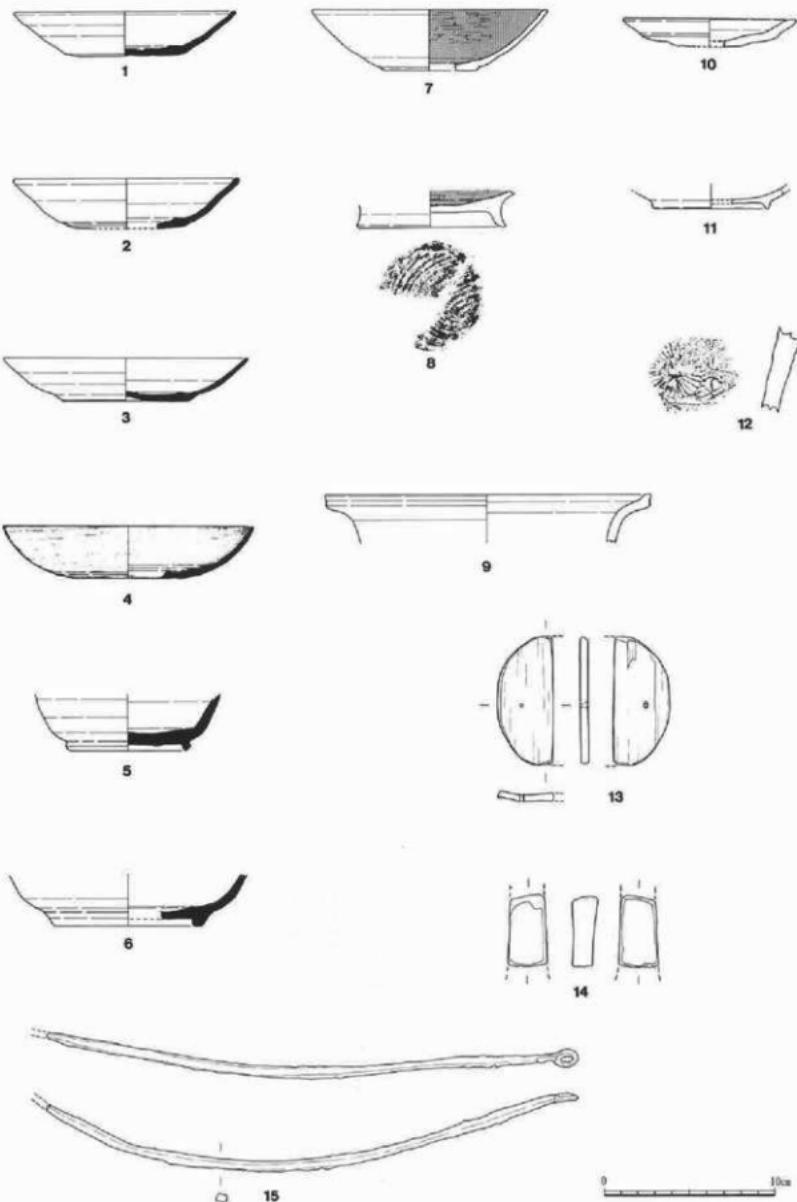
第2図 北吉田カイザキ遺跡発掘トレンチ位置図



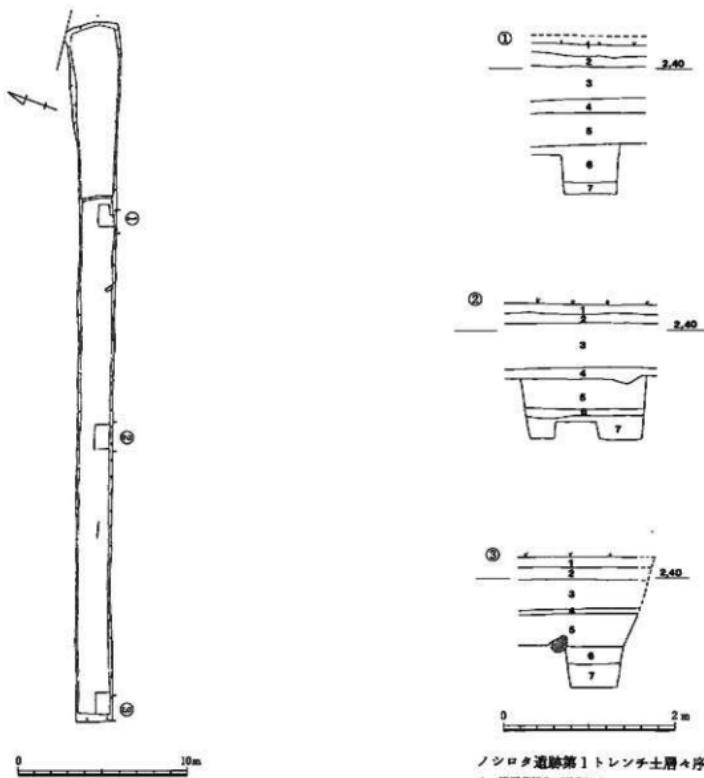
第3図 北吉田ノシロタ・ホシナ遺跡発掘トレンチ位置図



第4図 北吉田カイザキ遺跡発掘区実測図

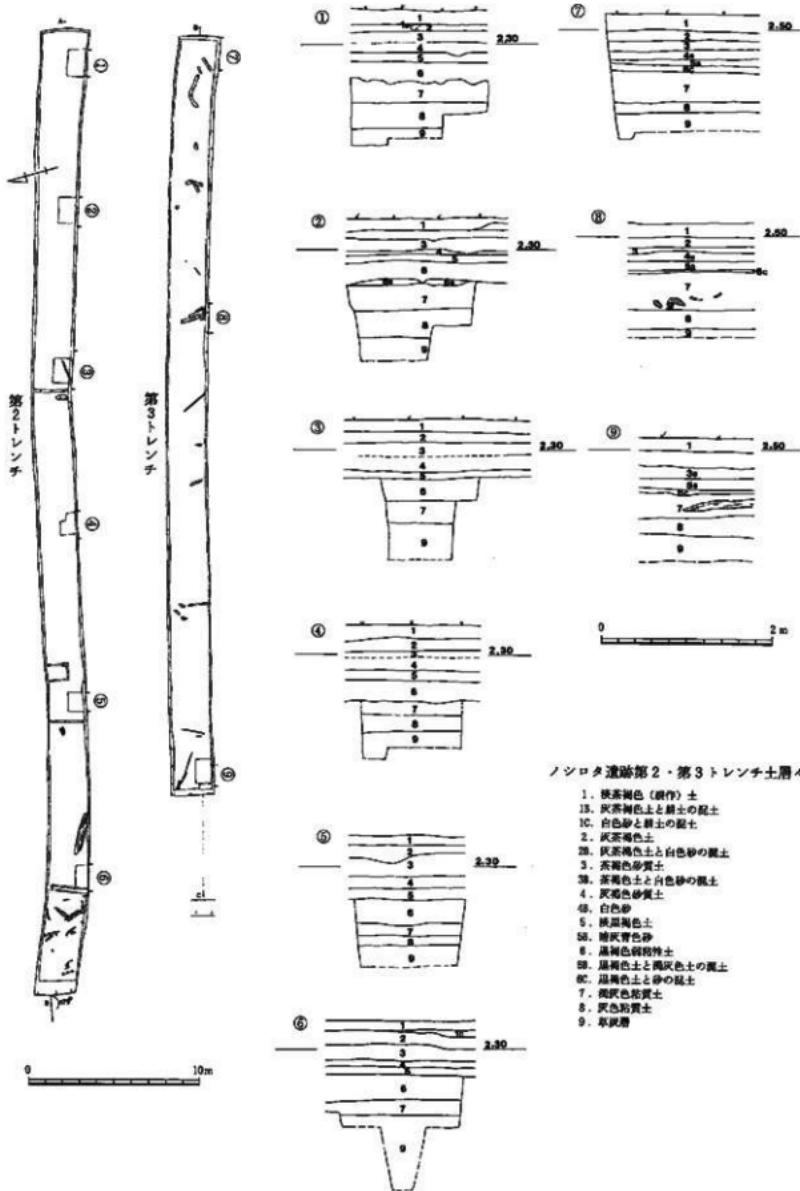


第5図 北吉田カイザキ遺跡発掘区出土遺物

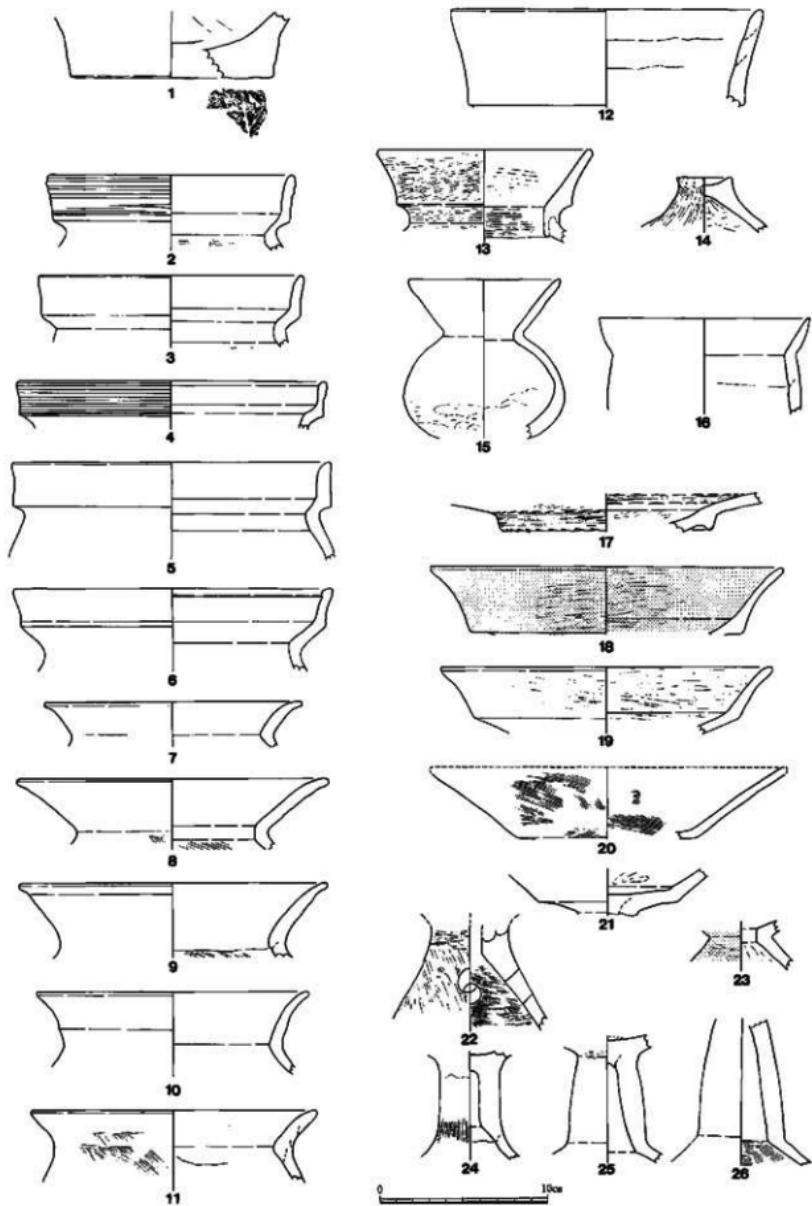


ノシロタ遺跡第1トレンチ土層々序
 1. 淡灰赤褐色(耕作)土
 2. 淡褐色土
 3. 淡青褐色砂質土
 4. 淡青色土(遺物若干含まれる)
 5. 黑褐色粘性土(土器等遺物含まれる)
 6. 淡褐色粘質土(自然木・黑褐色土混合)
 7. 淡茶褐色土(植物遺存を多量に含む)

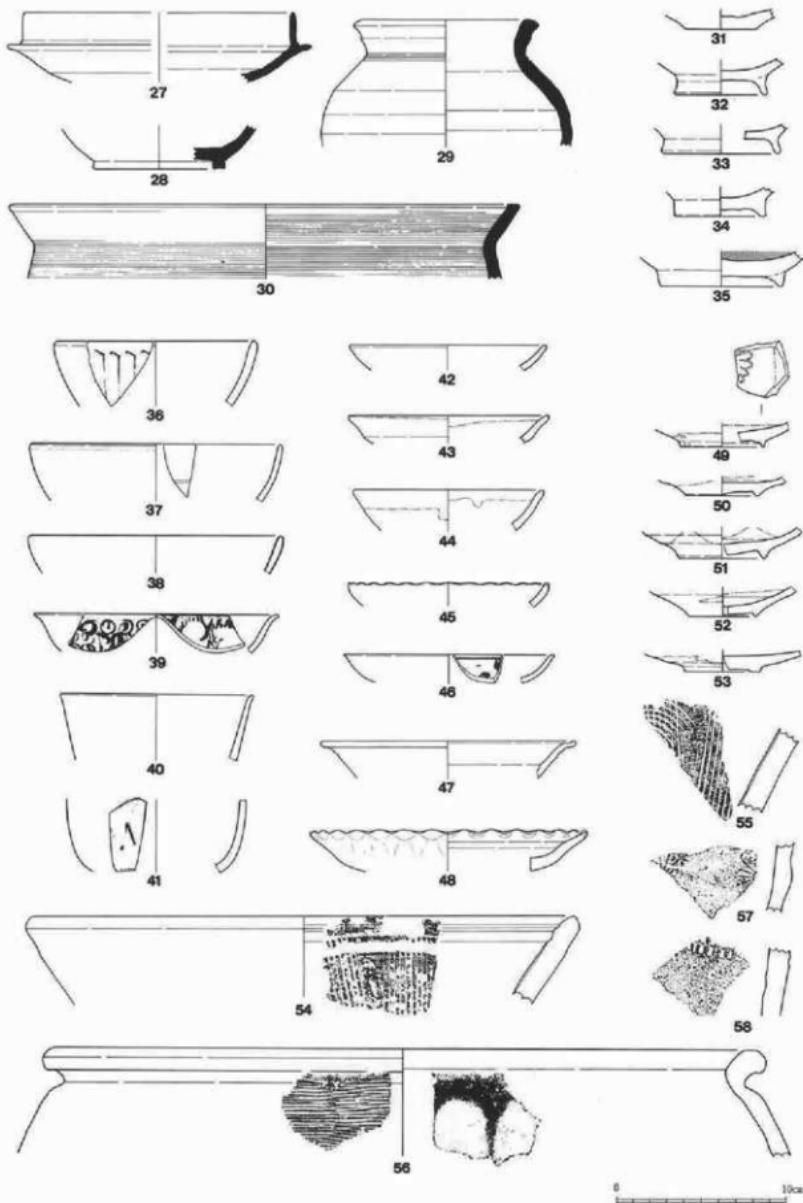
第6図 北吉田ノシロタ遺跡第1トレンチ実測図



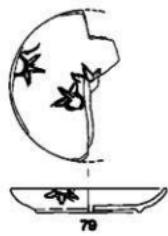
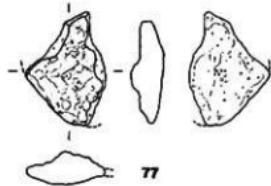
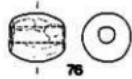
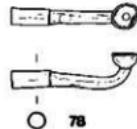
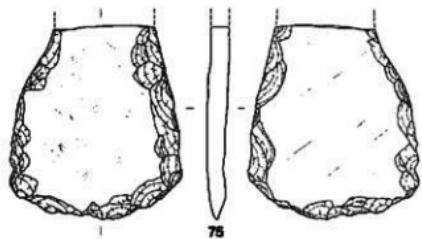
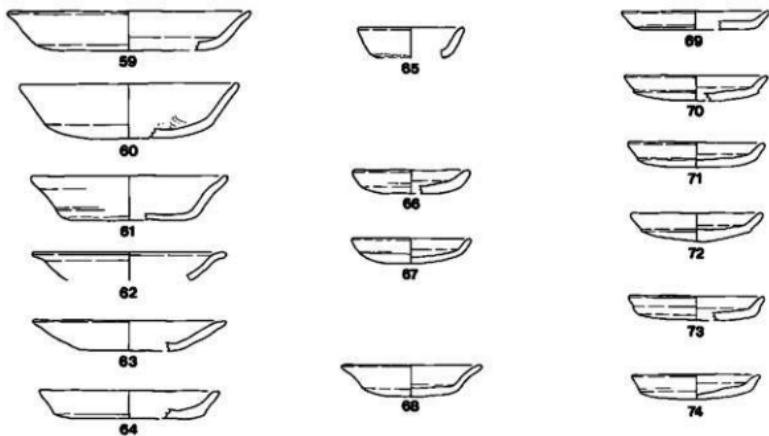
第7図 北吉田ノシロタ遺跡第2・3トレンチ実測図



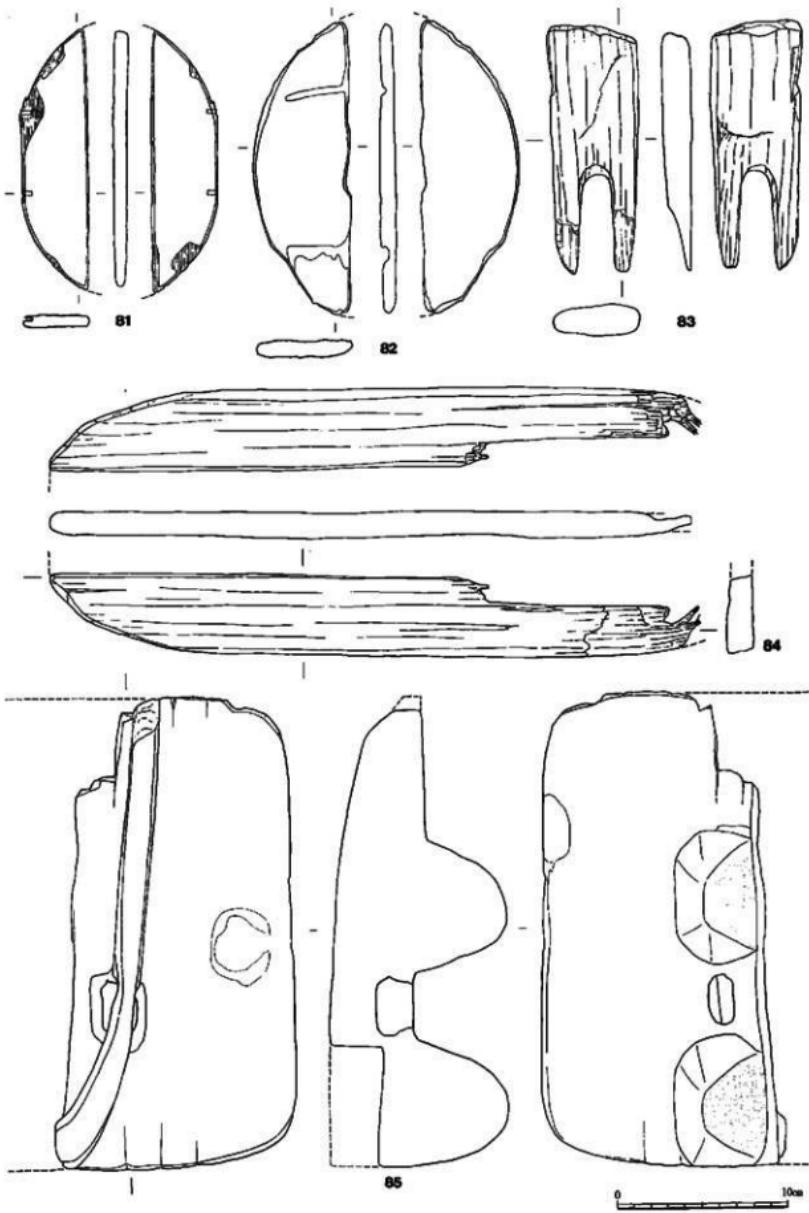
第8図 北吉田ノシロタ遺跡出土遺物（その1）



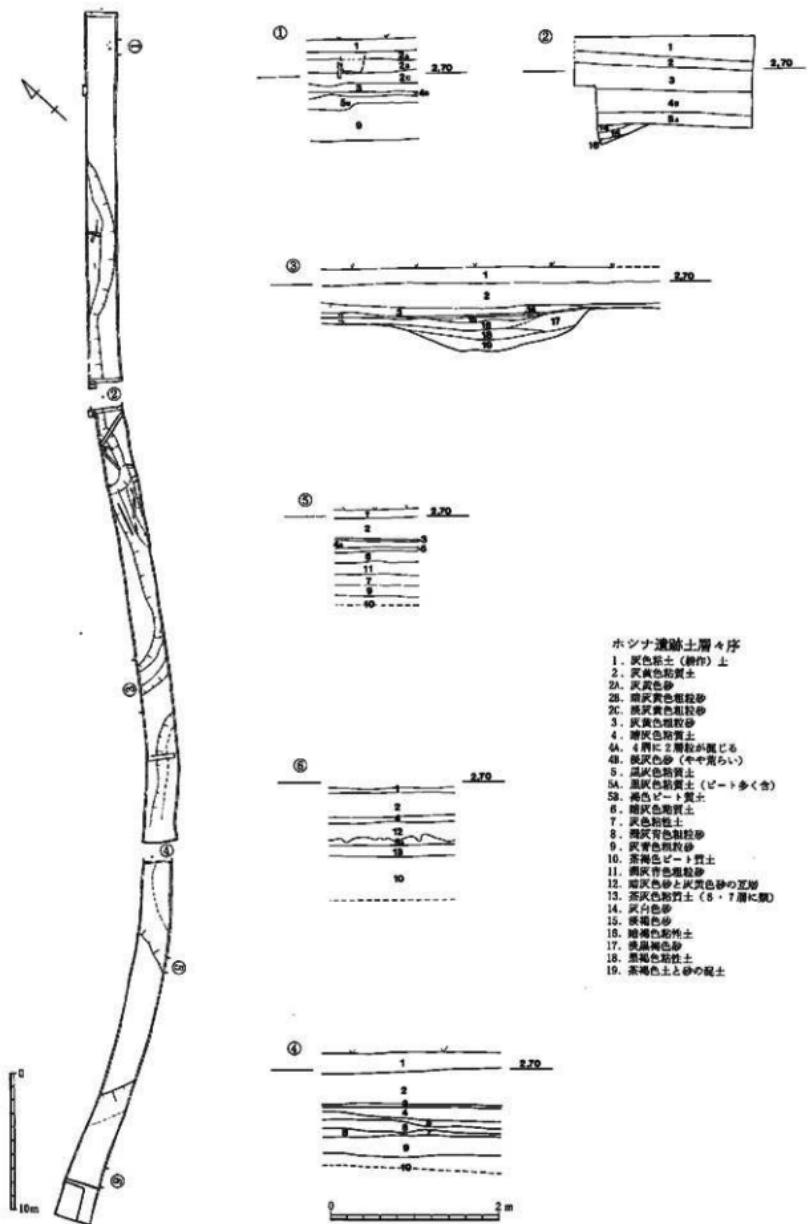
第9図 北吉田ノシロタ遺跡出土遺物（その2）



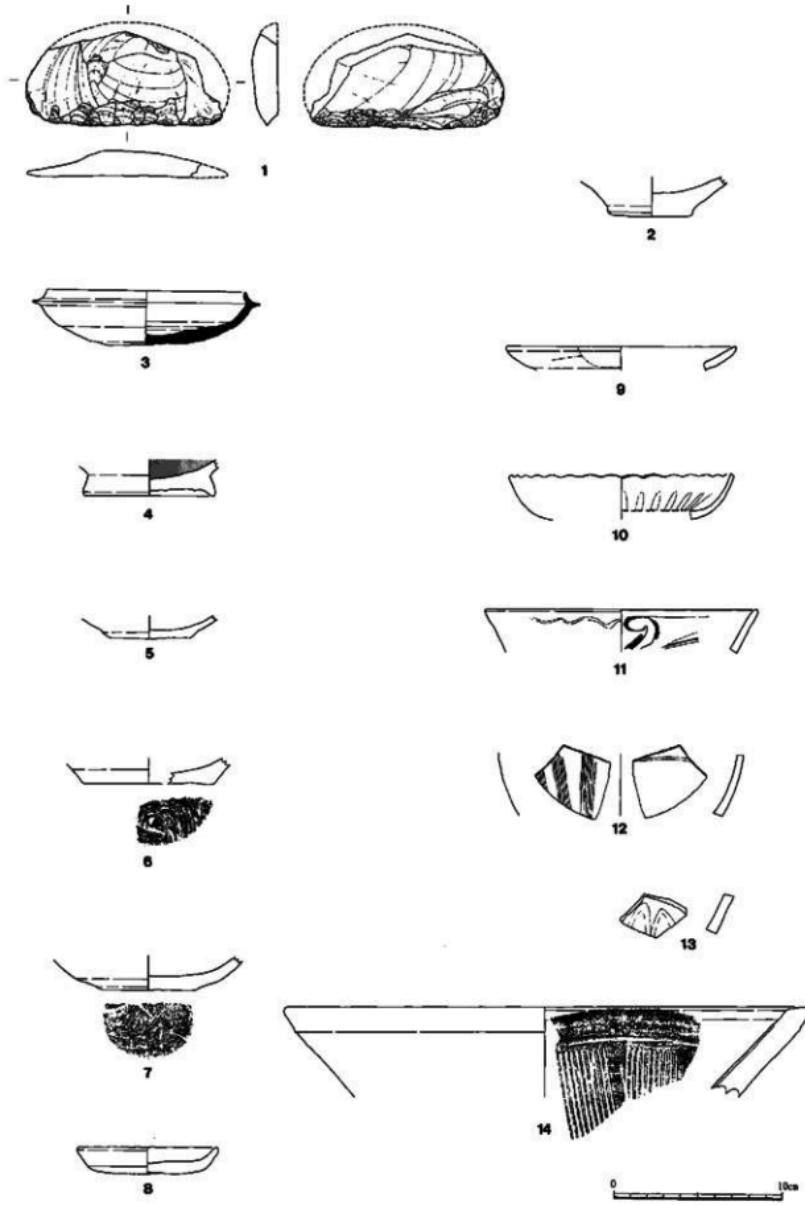
第10図 北吉田ノシロタ遺跡出土遺物（その3）



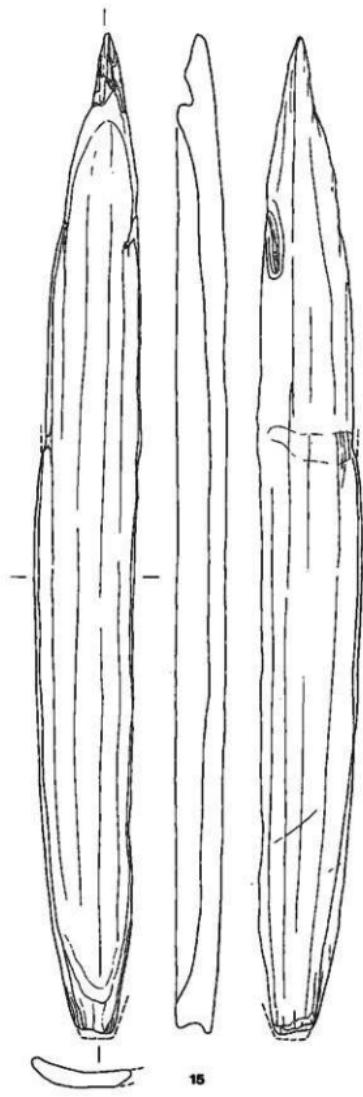
第11図 北吉田ノシロタ遺跡出土遺物（その4）



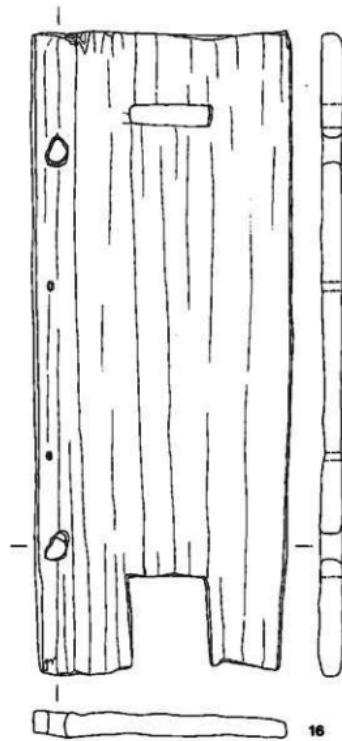
第12図 北吉田ホシナ遭跡発掘区実測図



第13図 北吉田ホシナ遺跡出土遺物（その1）



15



16

0 10cm

第14図 北吉田ホシナ遺跡出土遺物（その2）

第2章 平成5年度の調査

第1節 調査の概要（第15図）

平成5年度の調査区は、前年度調査された北吉田ノシロタ遺跡発掘調査地の南西に位置する。調査区は農道部分（Ⅰ区）と排水路部分（Ⅱ区）があるが、いずれも米町川の旧河道跡の右岸にあたる地点で名残の小流域が調査区の横を流れている。遺跡はこの旧河道によってかなり変形されており、調査区は限定された小さな範囲となつた。

発掘調査は5月31日から道路部分のⅠ区から開始した。遺構検出面は表土から1m前後と深く、また、湧水が見られたため、調査区の壁面下に排水溝を掘削すると共に調査区の壁面を一部崩し、排土用の通路を設け調査を進めた。遺構検出面は黒褐色系の粘質土で、水を被ると軟弱になり、乾くと硬化する土層で、また、遺構覆土がこのベース土と類似していたため調査は難航した。それでも、6月の半ばには遺構検出を終え、遺構の振り下げを開始した。検出した遺構は溝4条と、不整形な土坑5基および柱穴3基にとどまる。遺構の振り下げを進めると、これらはほぼ古墳時代初頭を前後する時期に限定される事が判明した。6月の後半には遺構を完掘し、排水路部分のⅡ区の調査を開始した。

Ⅰ区は灰褐色の粘質土をベース面として捉えたが、柱穴様の穴を2基確認したにとどまり、少量の土器片を探取し調査を終了した。6月30日に器材を撤収し現地での調査を終えた。

第2節 遺構と遺物（第16～22図）

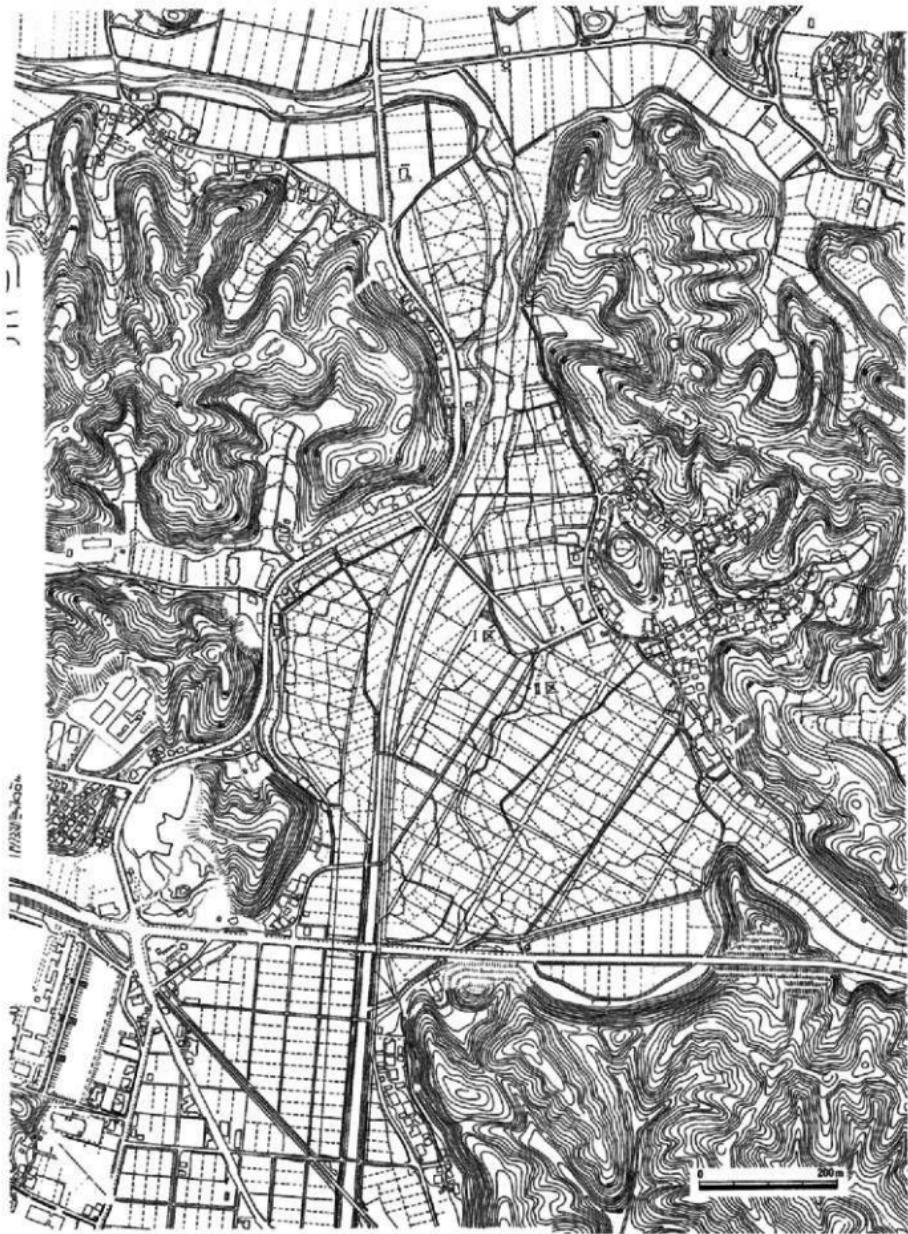
Ⅰ区は台形状を呈し長辺約22m、短辺約10m、幅約12m、面積は約200m²である。表土から遺構検出面まで1m前後であるが、その半分が表土と洪水堆積層と思われる青灰色や黄褐色の砂の混じる土層で、その下位の4層は近世段階前後の耕作土と思われる灰色の粘質土である。古墳時代の包含層と思われる土層は調査区の北東側や南東側のやや下がった部分でのみ確認できる。ベース面は黒灰色の粘質土であるが、中央部で高く、東西方向に下がっていく。検出した遺構は前述の通りである。遺構覆土はすべて5層とした暗灰色粘質土を基本とする。

1号溝はA-1、2区で検出され、東西方向に流れる。幅員を全握していないので規模は不明である。溝底に貼り付くような形で多量の遺物が出土している。固化した土器は、壺（第20図2、4、5）、甕（第20図11）器台（第21図27、28、30）があり、また磨石（第22図37、38）、台石（第22図41）が出土している。土器は細片が多い。流れ込んだものであろう。また、右岸寄りで溝底に幅1m、長さ1.6m、深さ0.2m程の土坑が掘られており、この中から第20図8の甕が出土している。

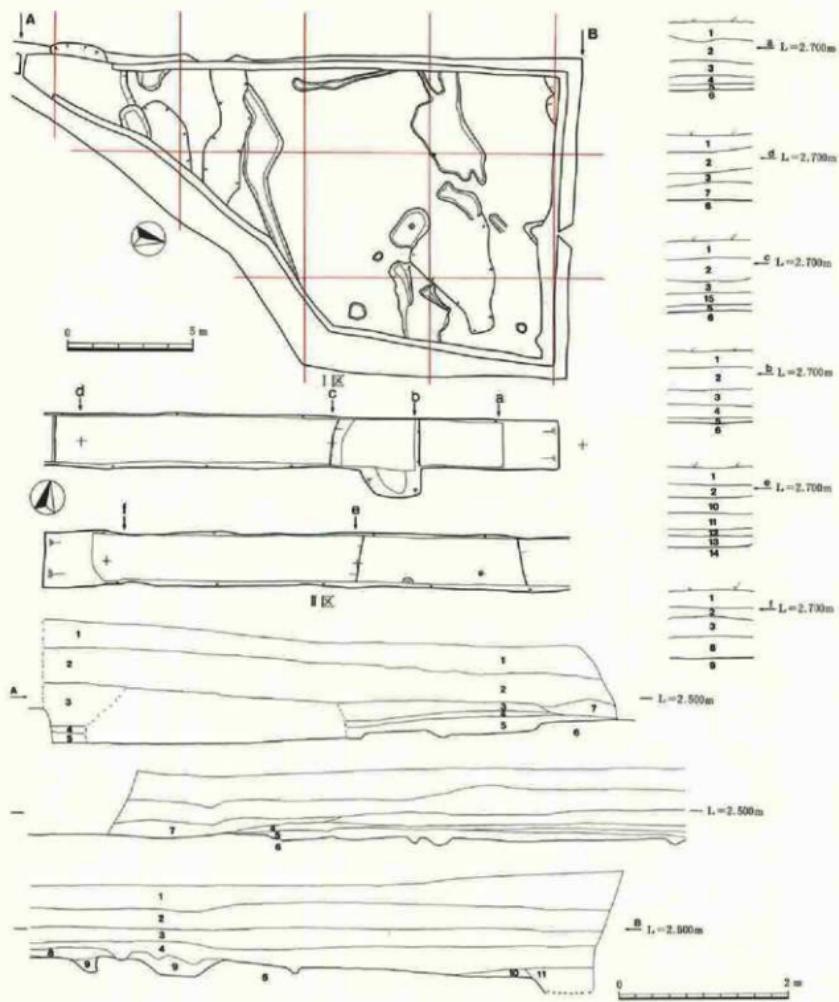
2号溝はこれに平行するような方向をとる。B-3区北東コーナー付近では幅0.5m程であるが、A区とB区の境付近ではやや蛇行し、幅も1.4m前後となる。固化できるような遺物は出土していない。3号溝は幅0.3m、深さ0.1mの浅い溝でB-5区で一部を確認した他が、西側では4号土坑と重なり、A-4区東端で調査区外へと抜ける。同様に東側でも延長するものと思われる。

A-4区の4号溝はこれらとは方向を90度違える。幅0.2m、深さ0.2mである。固化できるような遺物の出土はない。

1号土坑はA-2区西側壁にかかる状態で検出された。幅1.2m、深さ0.15mで形状は1号溝内の土坑と同様なものと考えられる。2～5号土坑は形状、主軸の方向を違えるものの4区と5区の境あたりに列ぶ様に検出された。本来は連続するものの可能性がある。2号土坑は幅2m、長さ3m程の不整長方形で南北の立ち上がり際に溝状の落込みを有する。深さは坑底で0.2m、落込み部分で0.3m程である。第20図12の甕などが出土している。



第15図 調査区の位置 ($S = 1/7,500$)



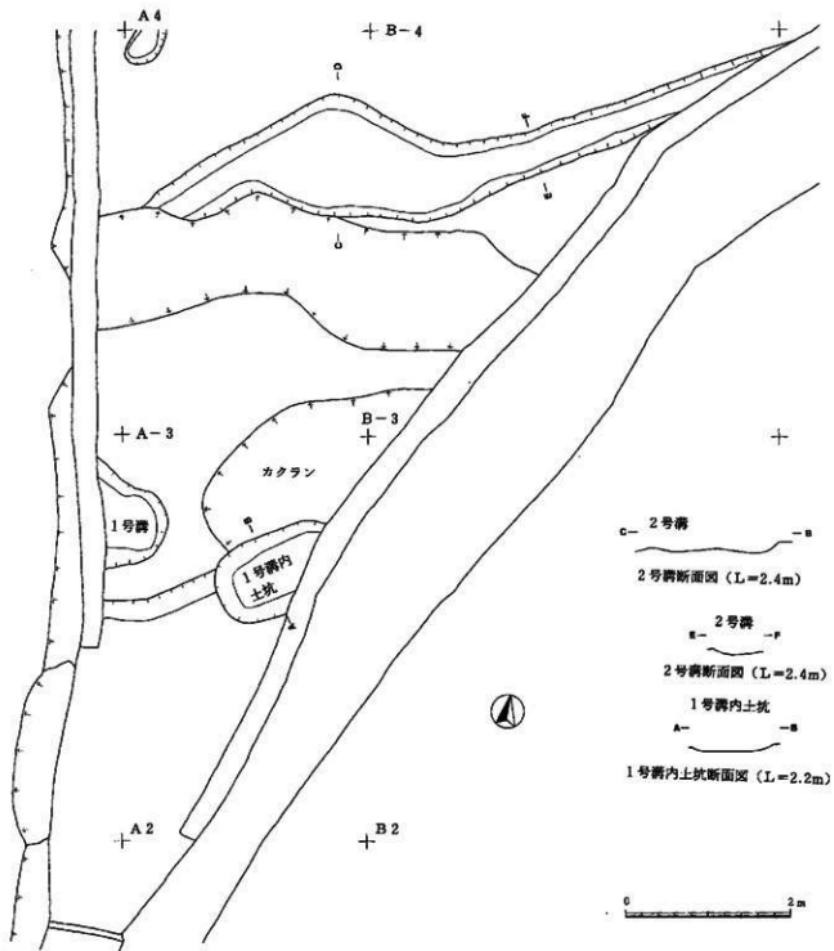
I区北壁土層図

- 1 砂土
- 2 黄褐色砂多量混入の青灰色砂質土
- 3 青灰色砂質土
- 4 灰色砂質土
- 5 暗灰色砂質土（土器・炭粒含む）包含層
- 6 黑灰色砂質土
- 7 青緑色砂
- 8 5層と同じだが層より若干薄るる粘土である
- 9 深灰色砂質土
- 10 4層と同じだが若干明るい
- 11 灰色砂

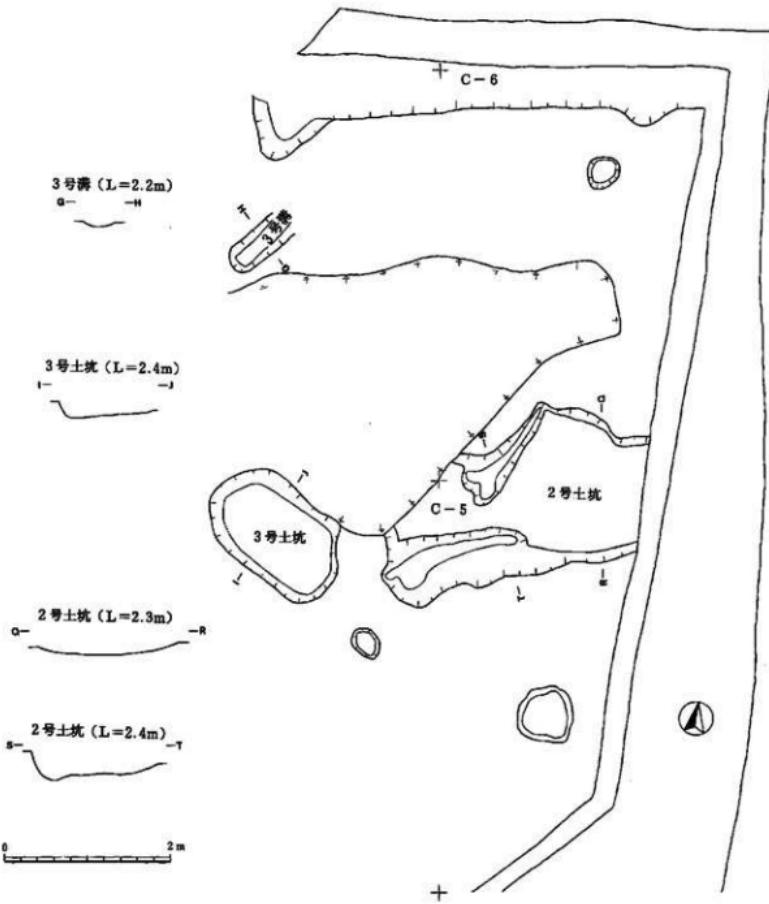
I区北壁土層図

- 1 砂土
- 2 淡灰色砂質土
- 3 青灰色砂質土
- 4 灰色砂質土
- 5 青褐色砂質土
- 6 青灰色砂質土
- 7 青褐色砂質土
- 8 灰色砂質土
- 9 青灰色土
- 10 北側砂質土
- 11 灰色砂質土

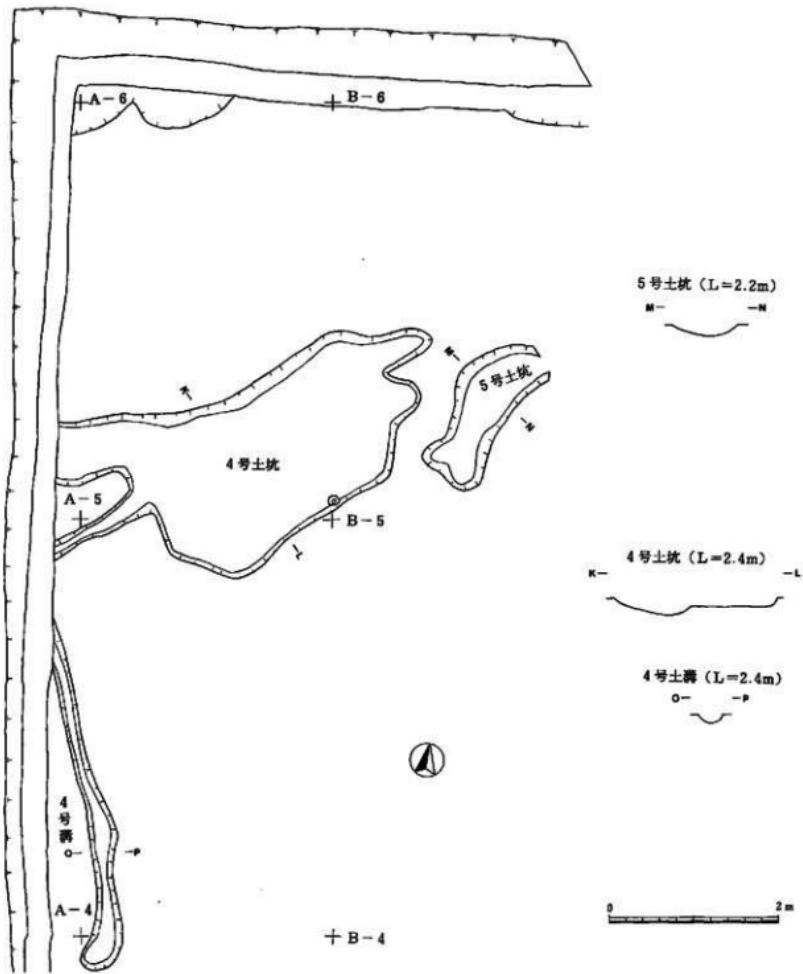
第16図 遺構の配置 (S=1/200) と土層 (S=1/60)



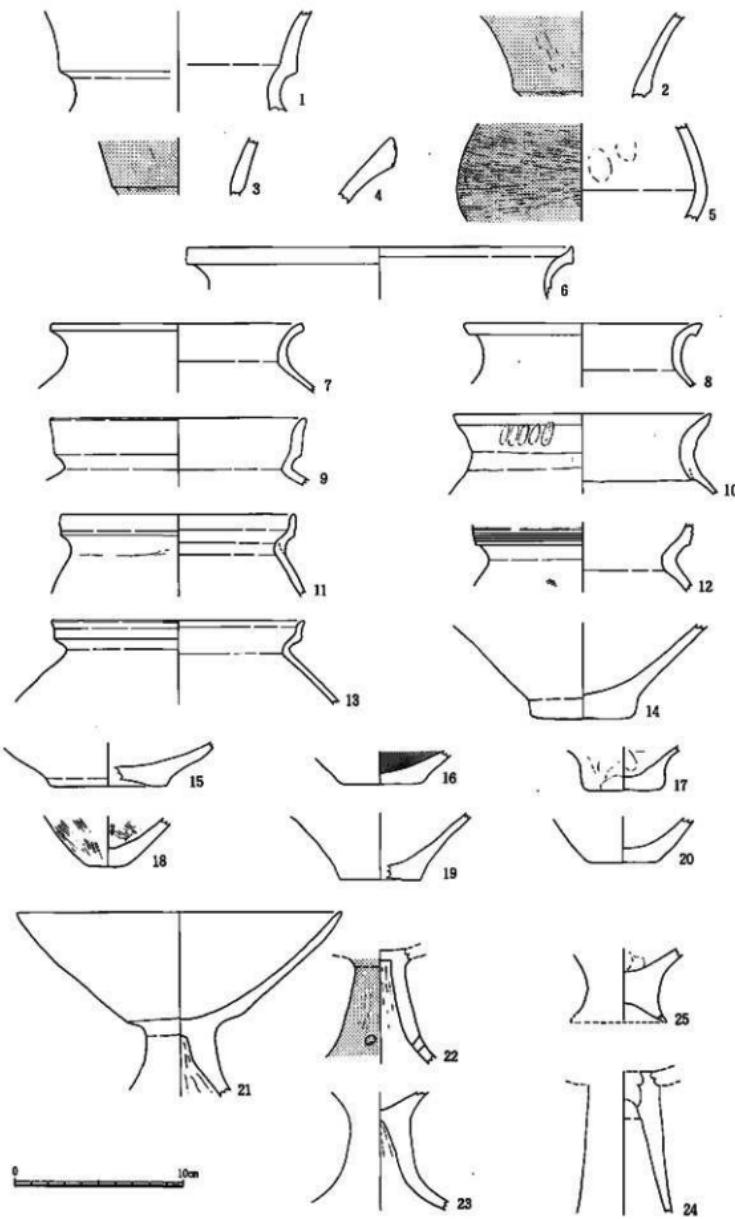
第17图 I区遺構図1 ($S = 1/60$)



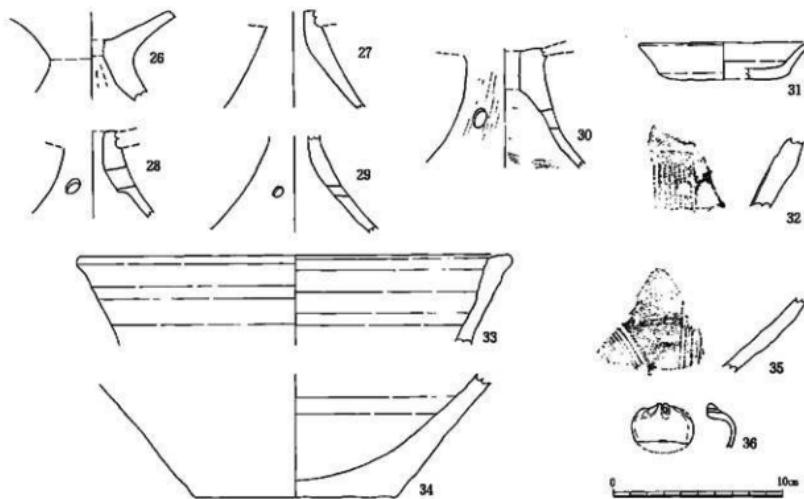
第18図 I区遺構図2 (S=1/60)



第19図 I区遺構図3 ($S=1/60$)



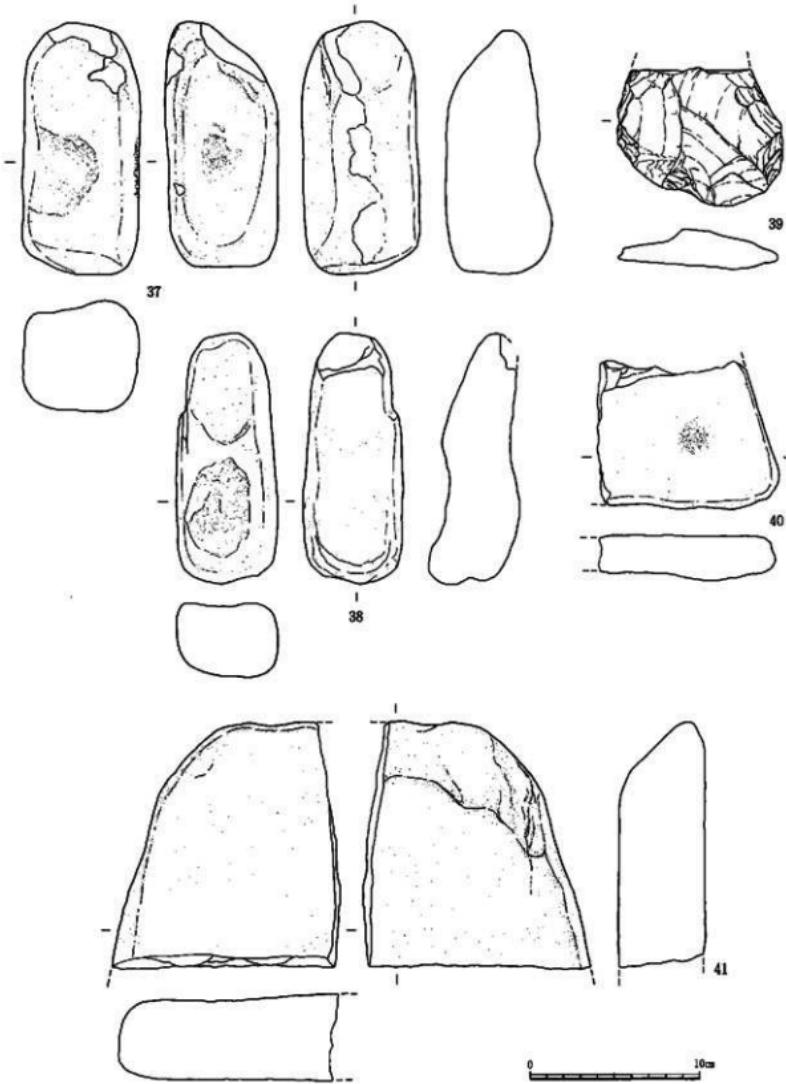
第20圖 出土遺構實測圖 1 ($S = 1/3$)



第21図 出土遺物実測図2 (S=1/3)

北吉田ノシロタ遺跡出土土器観察表

図版No. 第2回	出土地點	器種	法量(cm)			色調 (内) (外)	焼成 (内) (外)	調査 (上位より)	地 土	備 考
			口径	底周	底深					
1	I区排水渠	土・甕				(内) にい 黄褐色 (外) "	良	(内) 烧成の為不鮮 (外) "	1mm前後の砂粒含む	壁厚4.0cm
2	1箇フカ土	土				(内) にい 黄褐色 (外) にい赤褐色	"	(内) ナデ (外) カヤ	"	壁厚6.0cm 外縁彎曲
3	I区 A-1、2区砂包含層	"				(内) にい 黄褐色 (外) にい赤褐色	"	(内) ナデ (外) ハケ	"	壁厚7.8cm 外縁彎曲
4	I区 1箇フカ土	土 重口鉢部				(内) 茶白へ灰白色 (外) "	差	(内) (外)	面縁骨片含む	白縁部に後藤 氏の呂文有り
5	I区1箇フカ土	土 壁?				(内) 黑褐 (外) にい 暗褐色	良	(内) ナデ (外) カヤ	1mm前後の砂粒含む	赤茶 指痕直底
6	I区C-4区包含層	土・甕	22.8			(内) 茶白 (外) "	"	(内) ヨコナデ (外) "	"	
7	I区 A-1-2箇砂包含層	"				(内) 茶白 (外) "	"	(内) 烧成の為不鮮 (外) "	1.5mm前後の砂粒多 い	
8	I区1号側内土坑		14.0			(内) 茶白色 (外) 茶白色へ淡黃 色	差	(内) (外)		
9	I区 A-1-2区砂包含層	土・甕	15.0			(内) 淡黄褐色 (外) "	良	(内) ヨコナデ (外) "	1mm前後の砂粒を多 く含む	
10	"		15.0			(内) 茶白 (外) 茶白色	差	(内) (外)	2~3mm程度の細粒 含む	
11	I区1箇フカ土	土・甕	13.8			(内) 茶白 (外) 茶褐色	良	(内) ヨコナデ、ケズリのちナ デ (外) ヨコナデ	1mm前後の砂粒多く 含む	多面黒斑有り
12	I区1-2号土坑	"	13.0			(内) にい 黄褐色 (外) 茶褐色	"	(内) ヨコナデ、ナデ (外) 織田継、ナゲ、ハケ	"	
13	I区 3号土坑、フカ土	"	14.8			(内) 黑褐 (外) "	"	(内) ヨコナデ (外) "	"	
14	I区 4号土坑、フカ土	土、底部	6.0			(内) にい 暗褐色 (外) "	"	(内) 烧成の為不鮮 (外) "	2mm前後の砂粒多い	



第22図 出土遺構実測図 3 (S = 1/3)

図版No. 第 図	出 土 地 点	石 墓	法 量 (cm)			(内) (外)	焼成	(OP) (外)	測定 (上位より)	地 士	備 考
			口徑	器高	底径						
15	I区 A-1、2区包含層	土、複数部		7.0		(内) 黒(黒)色 (外) 灰白色～灰黃色	良	(内) (外)	2～3mm粒の燒 結骨片含む		
16	I区C-4、包含層	土、直器		5.2		(内) 黑褐色 (外) 白	良	(内) 烧結の為不明 (外) ×	1mm前後の砂粒含む		
17	I区C-5区、包含層	土、複数部		4.6		(内) 灰白色 (外) ×	×	(内) ナデ (外) ×	〃	一箇黑褐色有り 燒結骨片有り	
18	〃	〃		2.2		(内) 灰白色 (外) にい黄斑	×	(内) ハケ、ナデ (外) ×	1mm前後の砂粒を多 く含む	燒結骨片含む	
19	I区A-4、包含層	〃		4.8		(内) にい黄斑 (外) ×	×	(内) 烧結の為不明 (外) ×	1cm前後の砂粒含む、 3mm程度の焼結含む		
20	I区、清水御附	土、礫				(内) にい黄 (外) ×	×	(内) 烧結の為不明 (外) ×	1cm前後の砂粒含む		
21	I区 3号土坑、フク土	土、高杯	19.2			(内) 黑黄褐色 (外) ×	×	(内) 烧結の為不明 (外) ×	〃	外面部黒褐色 有り し押り痕	
22	I区、清水御附	〃				(内) 黑赤褐色 (外) ×	×	(内) し押り痕、ナデ (外) 烧結の為不明	〃	外面部 透し穴3ヶ所 基部径3.0cm	
23	I区 4号土坑、フク土	〃				(内) にい黄 (外) ×	×	(内) し押り痕、ナデ (外) 烧結の為不明	〃	外面部 透し穴3ヶ所 基部径3.6cm	
24	I区C-4 黑灰色點	〃?				(内) 黑黄褐色 (外) ×	×	(内) ナデ (外) 烧結の為不明	〃	基部径4.2cm	
25	I区 清水御附	土、台付鉢				(内) 黑黄褐色 (外) ×	×	(内) ナデ (外) ×	〃		
26	I区 2号土坑	土、器台		10.0		(内) 黑黄褐色 (外) ×	×	(内) ナデ (外) ×	〃	燒結骨片有り	
27	I区1号フク上	〃?				(内) にい黄 (外) ×	×	(内) 烧結の為不明 (外) ×	〃	基部径3.2cm	
28	〃	土、器台				(内) 黑黄褐色 (外) ×	×	(内) ナデ (外) 烧結の為不明	〃	燒結骨片含む 基部径3.4cm	
29	I区C-4 包含層	土、高杯?				(内) 黑褐色 (外) ×	×	(内) 烧結の為不明 (外) ×	〃	透し穴3ヶ所	
30	I区1号フク土	土、器台				(内) 黑黄褐色 (外) ×	×	(内) ナデ、ハケ (外) 烧結の為不明	〃	〃	
31	I区4、5区包含層	中後土留 土・小底	2.2			(内) にい黄 (外) ×	良	(内) ヨコナデ、ナデ (外) ×	1mm前後の砂粒を含 む		
32	I区表土除去時	越すり跡				(内) にい黄 (外) ×	×	(内) ヨコナデ、すり目 (外) ヨコナデ	〃		
33	I区A-3区包含層	土・鉢	25.6			(内) 黑 (外) ×	×	(内) ヨコナデ (外) ×	〃	自然軸	
34	I区 A-1、2区砂包含層	土・複数部		12.0		(内) 黑 (外) ×	×	(内) ヨコナデ、ナデ (外) ×	〃		
35	〃	土・すり跡				(内) 黑 (外) ×	×	(内) すり目、ナデ (外) ヨコナデ	〃		
36	I区表土除去時	土鉢				(内) 黑白 (外) ×	×	(内) (外)	〃		

北吉田ノシロタ遺跡出土石器計測表

図版 No.	出 上 場 所	名 称	重 量 (g)	高 度 (cm)	厚 度 (cm)	偏 径 (cm)	備 考
37	I区1号フク土	磨石	1130.2	35.0	6.6	7.0	
38	〃	〃	640.3	35.0	4.7	8.0	
39	I区A-5区4号土坑	打製 石斧	213.8	8.1	2.2	9.7	
40	〃	台石	454.5	10.5	3.0	8.8	
41	I区1号フク土	〃	1818.4	34.6	5.2	13.3	

3号土坑は2号土坑の西に位置し、主軸は2号土坑と45度ほど異なる。長さ1.8m、幅1.2m、深さ0.1m程の長方形を呈する。第20図13のS字状口縁甕、同図21の高环が並んだ状態で出土している。

5号土坑は3号土坑と90度方向を違え、長さ2m、幅1m程の不整長方形を呈する。深さは0.15m程で本来は4号土坑と一緒に構造なのかも知れない。4号土坑は2号土坑と同一の方向をとり、長さ3m、幅2m、深さ0.1m程で不整椭円形を呈する。土坑の北東側で番号を付さなかったが溝状の遺構と切り合う。切り合いは不明である。第20図23の高环脚部、第22図の打製石斧、第22図の台石などが出土している。

この他、I区では上層から14世紀を中心とした遺物が出土している。

II区は幅2m、延長50mの100m²を調査対象としたが、前述したように柱穴様の穴を数基検出したにとどまる。遺物の出土量も少なく図化したのは第22図35の越前焼腰鉢と同図36の土器のみである。

第3節 まとめ

北吉田ノシロタ遺跡平成5年度調査区では農道部分調査区（I区）で古墳時代初頭を中心とした遺構、遺物確認した。遺構は溝、土坑を中心とするがその性格は明らかに出来ない。遺跡は米町川の旧河道によってかなり変形されている。地形を見ると、北吉田の集落が位置する丘陵の裾部が本調査区まで広がっており、遺跡はこのなだらかな丘陵裾部を中心に展開していたものと思われる。本調査区は遺跡の中心ではないのだろう。また、前年調査区とは別の遺跡と考えられる。

参考文献

- 石橋克美 1992『堀松貝塚遺跡』 石川県志賀町教育委員会
伊藤雅文 1992『北吉田ノノメ古墳群発掘調査報告書』 石川県立埋蔵文化財センター
志賀町史編纂委員会 1974『志賀町史』資料編 第1巻
朽木英道他 1995『谷内・杉谷遺跡群』 石川県立埋蔵文化財センター



1区表土除去作業（東方より）



3区表土除去作業（東方より）

図版2
カイザキ遺跡（平成4年度）



2区壁体の整理後（西方より）



2区壁体の整理後の崩落状況



3区作業風景（東方より）



3区完掘状況（東方より）



遺跡遠景（西方より）、矢印上はノシロタ、下はホシナ



1 トレンチ表土除去作業（東方より）



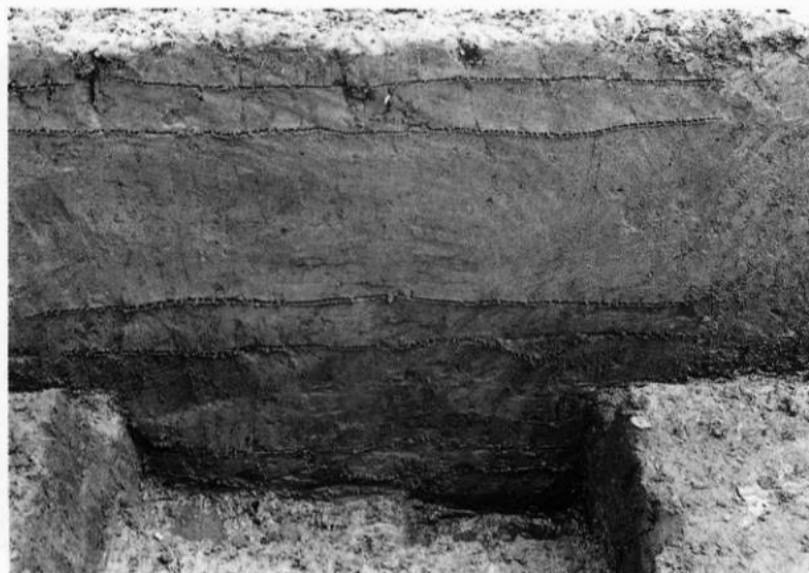
1 トレンチ発掘作業（東方より）



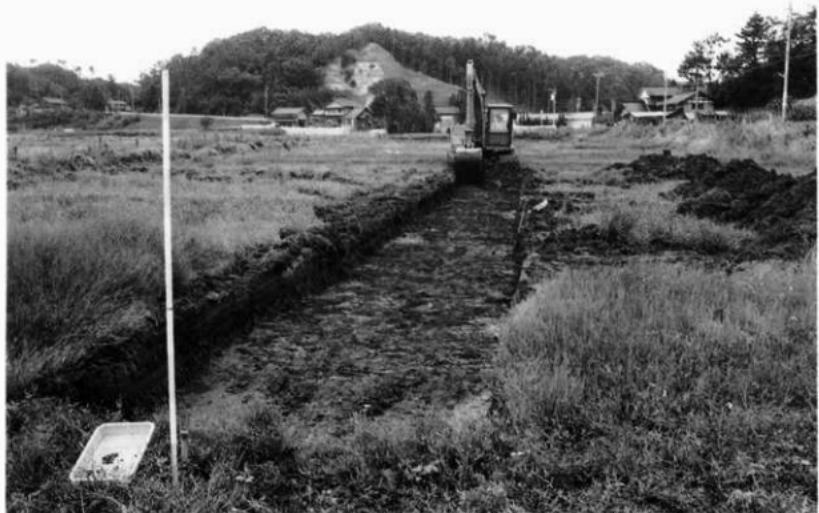
1 トレンチ完掘状況（東方より）



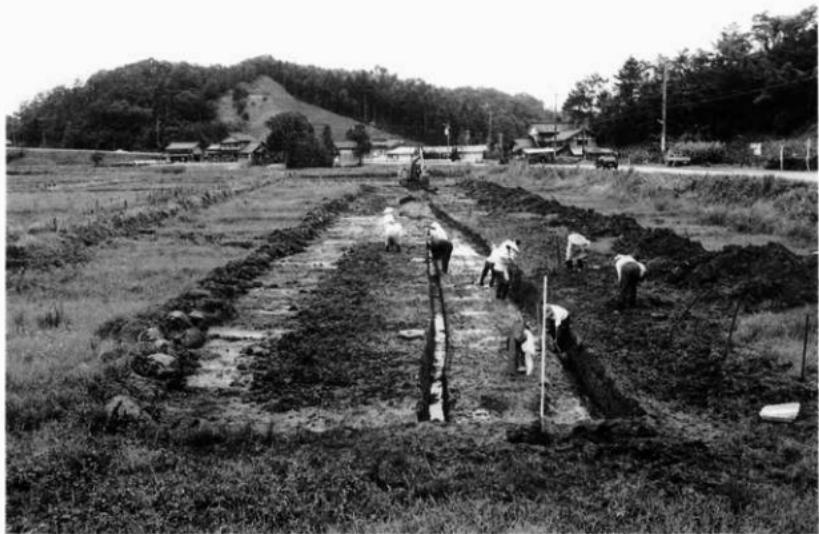
1 トレンチ完掘状況（西方より）



1 トレンチ基本的土層状況



2 トレンチ表土除去作業（東方より）



2 トレンチ発掘作業風景



2 トレンチ完掘状況（東方より）



2 トレンチ完掘状況（西方より）



2 トレンチ西端部木器等出土状況（東方より）



2 トレンチ西端木器等出土層と様相（北方より）



3 トレンチ完掘状況（東方より）



3 トレンチ完掘状況（西方より）



遺跡地近景（東方より）



発掘風景



1 トレンチ発掘作業風景（西方より）



1 トレンチ完成状況（東方より）



2 トレンチ東方端部溝跡（西方より）



2 トレンチ中央部付近溝跡（西方より）



2 レンチ西端自然傾斜部（西方より）



2 レンチ中央～西端部発掘風景（東方より）



3 トレンチ表土除去後（西方より）



3 トレンチ完掘状況（西方より）



北吉田ノシロタ遺跡平成 5 年度調査区工区全景（北東から）



I 区調査風景（北から）



I 区 A-4 区 I 層断面（東から）



I 区 1 号溝（南から）



I 区 2 号溝（東から）



図版
21

I区4号溝（東から）



図版
22

I区2・3号土坑（東から）



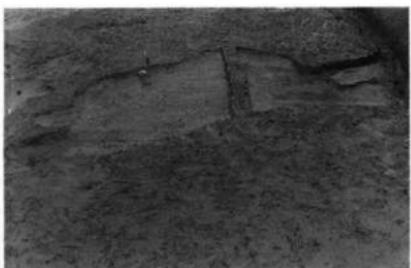
図版
23

I区3号土坑（南西から）



図版
24

I区5号土坑（南西から）



図版
25

I区4号土坑（北から）



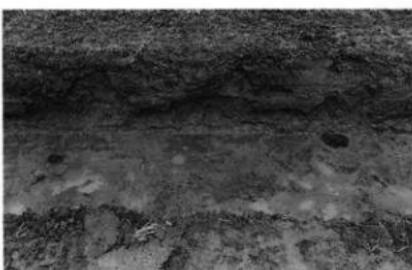
図版
26

II区全景（西から）



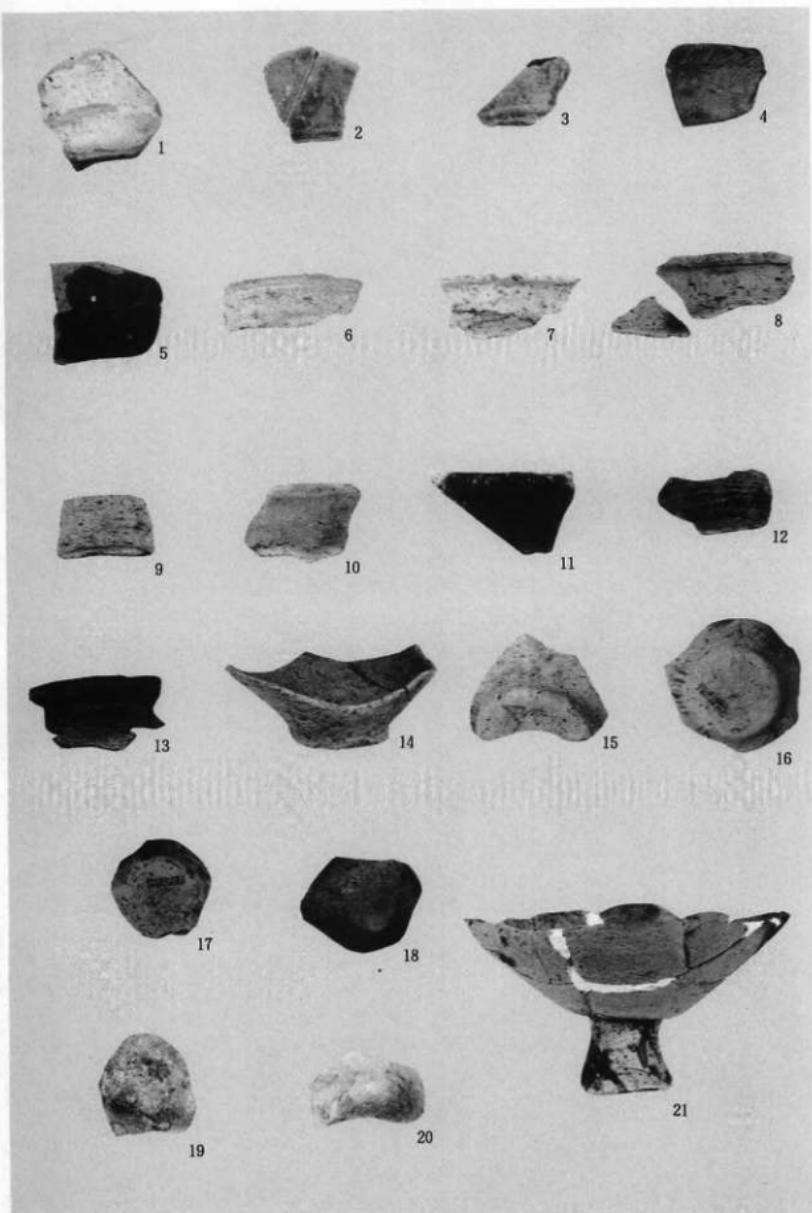
図版
27

II区調査風景（西から）

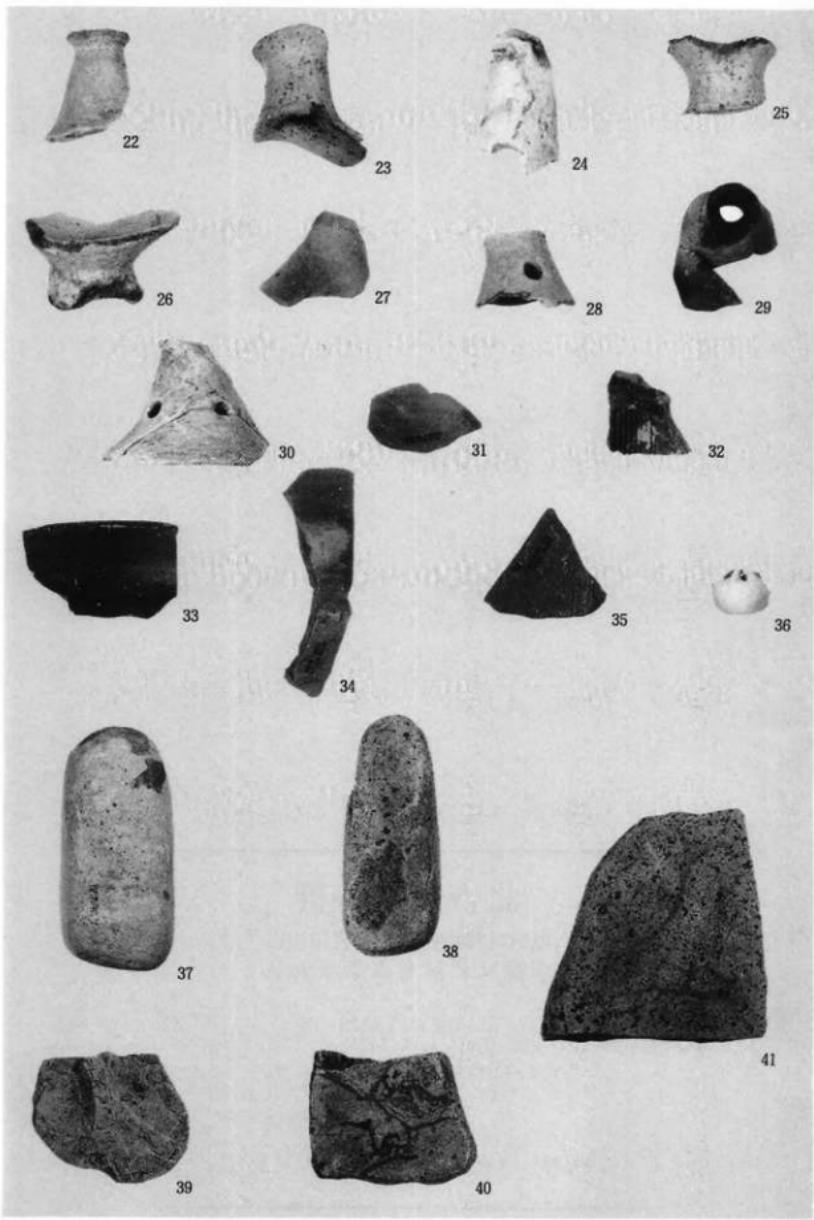


図版
28

II区造構（南から）



図版第29図 北吉田ノシロタ遺跡出土土器 ($S=1/3$)



図版第30図 北吉田ノシロタ遺跡出土土器、石器 (S = 1/3)

北吉田遺跡群

県営ほ場整備事業北吉田地区
埋蔵文化財発掘調査報告

発行日 平成9年3月31日(1997)

編集・発行 石川県立埋蔵文化財センター
番号21 石川県金沢市米泉町4丁目133番地
電話 (0762)43-7692

印 刷 北國書籍印刷株式会社
